

## 第2回 史跡根城跡整備活用検討委員会 議事要旨

日 時：平成31年2月5日（火）13:30～15:30  
場 所：八戸市博物館体験学習室

出席委員 6名

工藤竹久委員長 北野博司副委員長 熊谷隆次委員  
倉原宗孝委員 上野末蔵委員 柳谷強委員

指導・助言

葛城和穂文化財保護主幹（青森県教育庁文化財保護課）

事務局

吉田部長 橋本次長 古里館長 下村副館長

社会教育課 杉山主幹

博物館 船場主査 滝尻主事 落合主事 中村史跡根城跡整備嘱託職員

ウッドサークル（中田 曾根田）

<次第>

1. 開会
2. 部長挨拶
3. 会議
  - ①報告事項
    - ア 台風被害報告
    - イ ワーキング会議開催報告
  - ②史跡根城跡第2次整備基本計画（案）について
  - ③今後の工程について
  - ④その他
4. 閉会

発言内容

### 3. 会議

#### ①報告事項

ア 台風被害報告について

・モグラの被害について

(事務局説明)

工藤委員長：今までにこの様な流出はなかったのか。

事務局：平成 29 年に流出している。

工藤委員長：今後も発生する可能性があるのか。

事務局：被害箇所は遺構保護盛土の黒土が厚く日当たりが良い。ミミズが育ちやすい環境であり、これを餌とするモグラが発生しやすい環境である。造園業者や害虫駆除業者に相談してみたが、モグラに対する抜本的な対策は難しいようだ。

北野委員：モグラ穴は遺構面まで達しているか。あるいは保護盛土中なのか。

事務局：不明である。造園業者の話では、基本的は浅いところに留まり、地山まではもぐらないとのことであった。

北野委員：保護盛土の中であれば地盤改良である程度対策できるのではないか。モグラ対策には彼岸花を植えるのが有効であり、南の地域では行っている。風車を設置しているところもある。

工藤委員長：風車の音が鳥の翼の音と似ていることでモグラが近寄らなくなる。

・袖塀について

(事務局説明)

上野委員：袖塀の木材はヒバ材を使用しているのか。一般的には栗材なのではないか。

事務局：ヒバ材である。ヒバは水に強いため、掘立柱等に使われる。

上野委員：柱を土に埋める際に石を敷き詰めていないのか。

事務局：根城では石を使用せずそのまま埋めている。

上野委員：袖塀は文化財なのか。

事務局：文化財ではない。

上野委員：文化財でないのであれば、石を入れるなどして長寿命化を考えたほうが良いのではないか。

事務局：今回の修繕では土中に埋まる柱脚部分に銅板巻きをするなど、腐朽対策を講じている。

## イ ワーキング会議開催報告

### ・第1回根城復原建物修繕内容検討会議について

(事務局説明)

北野委員：三和土・園路・案内板の改修は本丸内のものということか。

事務局：三和土と園路は本丸内のもので、案内板は広場全体について考えている。

北野委員：トイレは数が問題なのではなく、誘導案内の問題ではないか。車椅子対応は、車を直接本丸まで入れなくても介助の案内方法を工夫することで解決できるのではないか。

工藤委員長：トイレは東禅寺館の多目的広場と本丸内の2箇所だけを使用しているのか。主殿管理棟のトイレは開放していないのか。

事務局：管理棟のトイレは開放していない。トイレに関する代表的な苦情は、案内が少ないことと洋式便器が少ないというものである。便器の洋式化については、設備機器の更新時に対応したい。

### ・根城跡岡前館整備検討会議について

(事務局説明)

工藤委員長：同会議では本丸は全体の調査を行ったが、本丸以外の曲輪の状況については良くわかっていない。全体の調査をして根城の全体像を明らかにしていくべきというご意見をいただいた。対象面積が大きいですが、どの様に調査していくのか。

事務局：堀や曲輪の形成順を考えるための調査としては、虎口と推定される部分や堀の分岐部分対象にトレンチ調査をしていきたい。沢里館や岡前館の曲輪内部に関しては平面的な調査をしていきたい。

工藤委員長：発掘調査はどの段階でやるのか。

事務局：短期計画の前半で検討している。2019年に調査計画を作成し、2020年に調査を行いたい。

熊谷委員：検討会で話題となった野帳と地籍図の年代はいつか。また地籍図の範囲はどのあたりか。

事務局：明治6年のものである。根城の周辺の地域については、ほぼ全て揃っている。

熊谷委員：野帳と地籍図は同年代のものか。

事務局：同年代である。

工藤委員長：これを機会に解読を進めてほしい。

## ②史跡根城跡第2次整備基本計画（案）について

### ・博物館移設について

（事務局説明）

工藤委員長：博物館移設の理由は収蔵庫の問題と建物の老朽化によるものか。

事務局：史跡保護の観点によるものである。史跡内に博物館があるのはよろしくないというご指摘をいただいている。

工藤委員長：保存管理計画書では移転の計画を載せている。移転の時期については、まだ先と考えるとよいのか。

事務局：建物の耐用年数には至っていないため、当面はこのままとしたい。

上野委員：博物館の建設時には史跡内にあることをどの様に考えていたのか。

工藤委員長：当時は史跡の近くに置き、一体で活用したいという考えだった。文化財保護に関する考え方が変わってきており、現在では基本的には史跡外に移すという考え方になってきた。

上野委員：収蔵品はどうするのか。

事務局：歴史収蔵庫と考古収蔵庫に美術館の収蔵品を一部保管している。美術館新設後には一時保管している収蔵品は返却する予定である。

上野委員：移設について、市民の理解を得るのは難しいのではないか。

工藤委員長：全国的には史跡の外部にある例が多い。

### ・本丸内園路について

事務局：根城は土の城であるため、全面を土系の舗装とする案も魅力的ではある。しかし、芝がきれいに根付いている環境が市民に好評であることも踏まえ、園路以外の部分の芝張りは踏襲したい。園路部分は土系舗装に改めたい。料金所前の斜面は昨年度グリーンテクターを撤去し芝張りとしたが、雨によって土が流れ、芝が根付かなかった。その他の園路については、一部を除き全体的にグリーンテクターとしているが、グリーンテクターが凍上などで浮き、歩行者の躓きの原因や車椅子の通行困難の原因となっている。園路の無い部分に関しても、斜面地等で芝が流れることにより、ぬかるみができるなどしている。これらを改善し、車椅子にも対応する案として園路部分には土系舗装を選択したい。

工藤委員長：本丸料金所の前も土系舗装とするのか。

事務局：現状の非常用通路を通るにせよ木橋を通るにせよ、車椅子利用者が自力で本丸に上がることが難しい。管理用通路を通り、本丸料金所前まで直接車が乗り入れることができる状況をつくるためにも、同所付近は土系の色の脱色アスファルトによる簡易舗装としたい。

工藤委員長：現状、グリーンテクターの部分は滑りやすい。

事務局：車椅子の方は、雪が無い状況でもグリーンテクター上ではなく、芝の上を通ることが多い。

北野委員：今まで根城で土系舗装の施工例はあるのか。

事務局：施工例は無い。

北野委員：寒冷地で使用しても問題はないのか。メンテナンスはどの程度必要なのか。

事務局：寒冷地用のものがあり、青森市でも使用している。メンテナンスは15年や20年程度で更新が必要となる。

北野委員：傷んだ箇所だけでなく、全体の更新が必要なのか。

事務局：傷んだ箇所は随時補修を行う。15年経過すると表面の劣化が見られる。

工藤委員長：土系舗装は透水性のあるものを使用するのか。

事務局：透水性があるものを採用すべき。

北野委員：凍上してしまうのでは。

事務局：凍結破壊が少ない製品を選ぶ必要がある。

工藤委員長：全体的に遺構面までは50cm程の盛土層があるので施工は可能である。

北野委員：段階的に整備を進められるのであれば、部分的に使用して経過観察してみてもどうか。

工藤委員長：場所によって冷え込み方も違おうだろう。一度に全面をやる必要は無いのではないか。

事務局：本丸内と旧八戸城の東門前にグリーンテクターが残っており、東門前で施工してみて経過観察をすることも可能である。東門前は日照条件が悪いため、芝が根付かず、状況が悪い。

倉原委員：舗装した場合、モグラの対策にもなるのか。

事務局：舗装面は掘られないだろう。芝を張るとミミズが多くなり、結果モグラが増えるということがある。

北野委員：中性固化剤には何を使用するのか。

事務局：木の灰を使用する。土の粒子ごとダンゴ状にするもので、土よりも透水性は良くなるが、メンテナンスが必要となる。

#### ・法面の遺構保護盛土について

(事務局説明)

工藤委員長：保護盛土の未整備地区はどこか。

事務局：本丸西側・東禅寺館西側・中館・沢里館の法面が未整備である。

上野委員：大木の根が残っていれば保水力があるが、整備によって木を伐採し、根が枯れると弱くなる。過去に整備した際は枝は落としたが、根は残した。

工藤委員長：具体的な方法は今後示すこととする。

・管理・便益施設について

(事務局説明)

工藤委員長：本丸内の料金所については、景観的に良くないことから他の案も検討したが、現状案に落ち着いた。プレハブ建物は屋内環境が厳しいので更新時には配慮してほしい。

事務局：旧料金所を移設する案も検討したが、復元建物であると誤解を生じてしまうおそれがあるため、断念した。

工藤委員長：更新時には現状変更の許可が必要なのか。

事務局：プレハブであるため、八戸市の判断で良い。

工藤委員長：ボランティアハウスについてボランティアからの要望はないのか。

事務局：狭いというのが問題点である。またトイレが欲しいという要望は受けている。現状、トイレについては博物館が近いのでそこを利用してもらっている。冬期間ボランティアハウスに人がいないこともあり、冬期間の寒さについてご意見はいただいている。

・西ノ沢について

工藤委員長：西ノ沢に対する言及が少ないがどのように考えているのか。

事務局：西ノ沢について一部を除いて樹木を伐採し、法面を保護している。法面保護に植生マットを使用しているが、伐採した樹木が伸びてきている。経過観察をしながら法面保護に努めていきたいと考えている。

・中期計画内で計画する新規動線について

(事務局説明)

工藤委員長：西ノ沢へと至る新規動線はあまりハードなものではない方が良い。現在この本丸の北側や西ノ沢あたりは人が歩ける状態ではない。このルートを使用するのであれば、樹木の伐採が必要になるのではないだろうか。いずれにせよ公園施設として提供できるものにしていただきたい。

・植生管理計画及び景観形成計画の作成

北野委員：植生についての管理計画がない。植生管理計画と景観形成計画が必要である。植生についてもその都度考えるのではなく、計画に基づいて整備すべきである。法面の保護などについても軽微なものについては、地元の植物で法面を保護しても良いだろう。地元の植物で法面保護に適したもののは何かを調べるべきである。また視点場についての検討も必要である。西ノ沢から西門を見上げた時の視点などは重要であろう。視点場によって回遊動線も違ってくる。景観形成計画作成も短期計画に入れるべきで

はないか。

工藤委員長：根城はいくつかの曲輪が連なって一つの城になっていることが特徴である。

城の構えを見せるためにも、視点場の検討・計画はしてほしい。

北野委員：史跡周辺の景観も重要である。外部からの根城を眺望する場合、どこかふさわしい場所はないのか。

事務局：川向こうから全景を見ることはできるが、他の場所からは見えない。

北野委員：根城を対象とした写真展をするなどして、市民から視点場に関する情報を集めることもできる。

工藤委員長：視点場の設定をすることにより園路設定の問題もよりクリアになる。次回会議で検討できるように、植生管理計画・景観形成計画の作成とあわせ、事務局には作業していただきたい。

#### ④その他

次回の委員会は7月を予定する。

閉会